

JAICOWSが新しい体制になりました！

JAICOWS、2018年度の総括と、2019年度の方針

すべての女性研究者のよりよい生活・研究環境の発展を目指して、前へ！

I. 2018年度の総括：(WPの契約解除、会員のための予算化)

昨年2018年は、長年業務委託しておりましたワールドプランニングとの契約を、役員の方々の話し合いを経て解除いたしました。年次予算を超えて支払いを続けてきた実態を清算し、2019年4月から委託体制を簡素化し、刷新しました(理由は役員会・総会報告、決算書をお読みください)。現状では会員の皆様の御協力のもと、順調に活動を開始することができ、今後は会員のためにより十分に予算をさける体制となりました。この間の役員の方々、会員の方々のご協力と励ましに心より感謝申し上げます。

JAICOWSは、学術会議の女性会員の島田淳子先生、一番ヶ瀬康子先生、原ひろ子先生、安川悦子先生らにより1994年に発足し、今年で25年、四半世紀となります。

会員の皆様およびご先達の錚々たる方々により、学術会議女性会員ひいては日本全国の女性研究者の環境改善のために活動し社会にもアピールを重ね、並々ならぬ努力がなされてきました。

その精神を受け継ぎ、JAICOWSは2015-19年までに会員を90～100名、現在115名と順調に増やし役員も拡大、昨年は非常勤講師のアンケート、各部会での研究会や講演会、さらには新しい財務体制により刷新を図り、その存在を内外に示してきました。

学術会議では、2019年現在、女性会員は208名中68名(32.7%)、連携会員は1874名中541名(28.9%)となっており、大幅に増加し、目標の3割をほぼ達成し、ジェンダー部会・分科会も活発に活動しています。それでもまだ日本のジェンダー指数は低く性暴力を含めて課題は山積みです。



JAICOWS会長
羽場 久美子

II. 2019年度の方針：(上野先生講演と、会員拡大、非常勤講師を含む女性研究者の条件改善)

2019年7月、青山学院大学で講演された上野千鶴子氏は、次のように深い言葉を投げかけられました。「若い時から社会を相手にジェンダーの無理解を批判し続けてきた。しかし今若い人たちから見て何も変わってないとなれば、ごめんなさい、と謝るしかない。」「何もしないこと、我慢することは加害者に加担することだ。当事者意識を持て!」「ジェンダー問題は男性の問題でもある。男性がともに立ち上がることが重要!」これらの言葉に学生・我々は大いに鼓舞されました。

2019年は学術会議の内外からもJAICOWS会員を募り、女性研究者のさらなる研究・環境改善に尽力していきたいと存じます。ぜひ会員の皆様の御協力を宜しくお願い致します。(なお、上野氏の講演については次号に要旨を掲載します。)



上野 千鶴子 先生

JAICOWS の使命として、学術会議のジェンダー部会や分科会と協力しつつ、そこで扱われていない問題や非常勤講師の問題、セクハラ、パワハラ問題、性暴力や介護、博士の研究支援など、学術会議内外で苦しんでおられる女性たち、若者たち、高齢者にも焦点を当て、一つ一つ前に進めていきたいと考えます。

昨年来、大学の教育の 6 割から 7 割を占めている「非常勤講師」の身分の不安定と賃金格差の問題に取り組んできました。さらに改善の具体的方向性を含め政策化したいと考えます。また科学研究費など研究費の拡大や研究環境の充実にも注意を払いたいと思います。

Ⅲ. 会員のご執筆、ご講演、ご提言のお願い（重要）

JAICOWS の歴史を熟知されている先輩会員の方々へのお願いです。皆様には、ぜひ「JAICOWS の歩み」やご研究についての執筆、提言、研究報告などを、NL や研究会でご披露頂ければ大変嬉しく存じます。JAICOWS の活動が、学術会議の女性会員・連携会員のために、また日本の、世界の女性研究者の悩みや差別を軽減するために今後も尽力していきたいと願います。皆様の御協力をお願いいたします。私の領域では 2019 年、「アジアの女性研究者が差別を克服しイキイキ研究・就職できる会」を世界国際関係学会（ISA）アジア太平洋地域（副会長）の中に設立しました。ASEAN、インド、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカ、中国、香港などの研究者と協力し、世界の女性研究者ともネットワークを拡大していきたいと存じます。

皆様の御協力とご活躍を、どうぞよろしくお願い申し上げます！

.....
上述のように先輩方にご意見をお願いしたところ、早速に以下の一文を寄せて下さいました。感謝致します。
.....

女性取締役比率の向上は企業の業績を向上させるか

武蔵野大学経済学部経済学科教授 瀬古 美喜

武蔵野大学経済学部経済学科講師 新倉 博明

2013 年 4 月、安倍総理は「役員に一人は女性を登用していただきたい」との要請を経済界に行った。それに呼応する形で、上場企業が守るべき規範「コーポレート・ガバナンスコード」には女性の活躍促進を含めた多様性を確保することが示されている。こうした動きは諸外国においてもみられ、ノルウェーやデンマークでは、女性役員を強制的に増加させるクォータ制が導入されている。その結果、2015 年における女性役員比率はノルウェーが 40.2%、デンマークは 26.5%となっている。クォータ制が導入されていないアメリカは 14.6%と北欧諸国と比較すると低い、我が国は 2018 年度において 4.1%と到底及ばない。



瀬古 美喜 先生

女性の活躍は少子高齢化対策としても注目されているが、我が国の女性役員比率が伸び悩んでいるのは、経済的な問題だけでなく文化や歴史的な背景など、様々な原因があるだろう。我々は、女性役員の増加が企業の経済的な業績に寄与するものであれば、企業は率先して女性役員を起用するようになるのではないか、という考えを基に、東京証券取引所の一部、二部、マザーズ、ジャスダックに上場する全企業のデータを用いて、その関係について分析した。

2015 年度のデータによると、上記 4 つの市場における平均女性取締役比率は 3.4%、一部上場企業は 3.6%、二部上場企業は 2.9%、マザーズ上場企業は 4.5%、ジャスダック上場企業は 3.1%であった。女性取締役比率が業績に与える効果を分析する際、女性取締役比率が高いと業績を向上させるのか、若しくは業績が高いと女性取締役比率を向上させるのか、といった逆の因果も考えられる。統計的な処理

によって逆の因果の可能性を排除した結果、一部上場企業においてのみ女性取締役比率の向上が業績（自己資本利益率、総資産利益率、トービンの Q）を向上させる効果がみられた。更に、一部上場企業において、女性社外取締役が業績に与える効果と女性社内取締役が業績に与える効果を比較したところ、女性社内取締役が業績向上に与える効果の方が大きいことがわかった。

女性取締役を増加させないといけないと企業が考えた時、社内から女性を探すのではなく、まずは社外から女性を探すことが多い。例えば、一部上場企業の女性取締役が 1 人以上いる企業において、(2015 年度において) 社外取締役に占める女性割合は 21% であるが、社内取締役に占める女性割合は 4% である。つまり、社外取締役に占める女性割合が高かったとしても、それはコーポレート・ガバナンスコードに準じるため、もしくは社会的評判を得るために形式上起用しているだけで、取締役として女性が活躍できる土壌が醸成されていない可能性が高い。こうした現象は「ウィンドウ・ドレッシング (Window dressing)」と呼ばれている。このような結果を踏まえて、女性取締役を 2 人以上起用している企業のためのデータを用いて分析したところ、女性取締役の数が増加するほど業績を高めている効果が観察された。

こうした結果は、女性取締役が活躍できる土壌は一部上場企業のような大企業においてのみ醸成されており、更に外から見た自社の評判だけのために取締役に女性を起用する企業よりも、社内で取締役に起用できる人材を持つ企業の方が、女性取締役が活躍し業績を高めていく効果を顕在化し易いことを示している。

女性取締役の向上は人数だけを目標にしがちであるが、重要なことは社内で女性の活躍を外から見た評判だけのためでなく、会社自体が女性の活躍を推進し、認めている土壌を作ることである。

JAICOWS

2018年度 役員会・総会 報告

日 時：2019 年 1 月 27 日（日） 役員会 12:00～12:45 総会 13:00～13:50

会 場：青山学院大学 総研ビル 12 階 大会議室

出 席：岩井宜子・小浜正子・袖井孝子・直井道子・羽場久美子・武田万里子・松原知代
(参加 7 名、なお、田原事務局長はインフルエンザのため欠席) 他に委任状 39 名

総会の前に 2018 年度第 3 回役員会が開かれたが、内容は総会報告と同様である。

司 会：袖井孝子理事

議事 1. 2018 年度の活動中間報告について

羽場会長より、資料 1 に基づいて報告され、了承された。

議事 2. 2018 年度会計中間報告について

羽場会長より、資料 2 に基づいて報告され、了承された。

議事 3. 2019 年度事業計画について

羽場会長より、資料 3 に基づいて提案され、了承された。

議事 4. 2019 年度予算案

羽場会長より、予算案 A（学会事務を従来通りワールドプランニングに委託する案）と、予算案 B（新たな委託先に変更する案）の 2 案が示され、審議。

審議の結果、来年度以降の予算の関係上、予算案 A では大幅赤字となるため、予算案 B（新たな委託先に変更する案）が了承された。

以上（文責：小浜正子、追加修正：羽場久美子）

資料 1 2018年度活動中間報告

(1) 役員会の開催 (2018 年 7 月 26 日、10 月 23 日、2019 年 1 月 27 日)

(2) 総会の開催 (2019 年 1 月 27 日)

(3) 研究会・講演会の開催

シンポジウム

日 程：2019 年 1 月 27 日

場 所：青山学院大学 総研ビル 12 階 大会議室

テーマと講師：

① 緊急！非常勤講師に関するアンケート調査報告

渋谷淳一（東京福祉大学専任講師）

② 非常勤講師組合から、非常勤講師の現状と課題

衣川清子（首都圏大学非常勤講師組合書記次長、法政大学非常勤講師）

③ 性犯罪規定改正後の性被害の状況—性被害救済センターの調査から

宮園久栄（東洋学園大学人間科学部教授）

(4) 日本学術会議ジェンダー関連の活動への参画

1) テーマ「セクシャル・ハラスメントをめぐる法政策の現状と課題—ハラスメント根絶に向けて—」

日 時：2018 年 9 月 3 日（土）13:00～18:00

場 所：日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議 法学委員会ジェンダー法分科会

共 催：ジェンダー法学会、日本スポーツとジェンダー学会、奈良女子大学アジア・ジェンダー文化
化学研究センター、科学研究費基盤研究 (A) ジェンダー視点に立つ『新しい世界史』の構
想と『市民教養』としての構築・発信（研究代表者：三成美保）

後 援：日本ジェンダー学会、ジェンダー史学会

第 1 部「ハラスメント根絶に向けた国内外の動き」

浅倉 むつ子（早稲田大学法学学術院教授）

井上 久美枝（日本労働組合連合会総合男女・雇用平等局総局長）

谷口 真由美（大阪国際大学グローバルビジネス学部准教授）

第 2 部「セクシャル・ハラスメントの実態と課題」

まき けいこ（元千葉県船橋市議 / 全国フェミニスト議員連盟共同代表）

林 美子（ジャーナリスト / メディアで働く女性ネットワーク代表世話人）

熊安 貴美江（大阪府立大学高等教育推進機構准教授）

北仲 千里（広島大学ハラスメント相談室准教授）

第 3 部 パネルディスカッション

2) テーマ「ドイツのハルツ改革が労働法・社会保障法に与えた影響」

日 時：2018 年 9 月 14 日（金）

場 所：日本学術会議講堂

主 催：日本学術会議 第一法学委員会「セーフティ・ネットのあり方を考える」分科会

共 催：科学研究費基盤研究 (S)「雇用の持続可能性とパラダイム転換」（研究代表者：和田肇）

基調講演（逐語通訳付き）：ライムント・ヴァルターマン（ドイツ・ボン大学法学部教授）

討論者 和田 肇（名古屋大学大学院法学研究科教授）

廣瀬 真理子（東海大学教養学部教授）

日本の労働法、社会保障法研究者 2 名によるコメントと質疑、

フロアからの質疑

(5) ニュースレターの発行（第 37 号、第 38 号）

(6) 非常勤講師を対象としたアンケート調査の分析

アンケート結果の性別、年齢層別、専門分野別などの分析を進めている。その概要をシンポジウムで報告予定（2019 年 1 月 27 日）。

(7) ホームページの更新

ホームページを担当してきた渋谷氏から、公務多忙のため、更新作業の担当者を交代してほしい旨の依頼があった。対応については、継続審議とした。

資料 2 2018 年度会計決算報告書

2018 年 1 月 27 日付の総会で 2018 年度会計中間報告を提出した。しかし、WP の業務委託費と NL 代金が年会費を上回ることもあり、話し合いの末、最終的に WP との契約を解除した。ゆえに会計については、解約日となった 2019 年 2 月 14 日をもって 2018 年度の決算書とする。

1. 収入の部

(単位；円) (2019 年 2 月 14 日現在)

勘定科目	① 予算額	② 決算額	差異 (②－①)	備 考
繰 越 金	214,219	214,219	0	
会 費	540,000	425,000	△115,000	
利 子		1	1	
寄 附	0	0	0	
収入合計	754,219	639,220	△114,999	

2. 支出の部

(単位；円)

勘定科目	① 予算額	② 決算額	差異 (①－②)	備 考
通 信 費	40,000	14,930	25,070	切手代、会費請求書発送費、総会 はがき代等
Newsletter 印刷費	120,000	48,276	77,132	NL.37 ^{注1}
Newsletter 発送費	20,000	14,592		
行 事 費	50,000	30,000	20,000	講師謝金等
会 議 費	25,000	21,123	3,877	弁当代等
事 務 費	50,000	324	49,676	諸経費 預金証明書発行手数料 ^{注2}
学会業務委託費	440,000	432,000	8,000	
備 品 等	5,000	2,808	2,192	振込手数料等
支出合計	750,000	564,053	185,947	

2019 年 2 月 14 日に WP を解約したため、2018 年秋以降の未決済費用は、2019 年度年の決算書に繰越

注 1 2018 年の News Letter No.38 の費用は、次年度 2019 年決算書（秋以降）へ繰越

注 2 2018 年 12 月以降の事務経費も、次年度 2019 年決算書（秋以降）へ繰越

浅倉むつ子先生に会計監査を依頼し、適切かつ正確であるをご承認いただきました。

資料3 2019年度事業計画

- 1) 役員会の開催
- 2) 総会の開催
- 3) 研究会・シンポジウムの開催
- 4) ニュースレターの発行（2回）
- 5) アンケート調査の分析
- 6) その他（女性研究者を活性化する活動など）

資料4 2019年度予算

1. 収入の部

（単位：円）

勘定科目	2018年度予算	2019年度予算	備 考
会 費	540,000	430,000	86/115（75%）
利 子	0	0	
前年度会費繰越		25,000	WP から繰越金と共に送られてきた繰越会費
前年度繰越金	214,219	75,167	
収入合計	754,219	530,167	

2. 支出の部

（単位：円）

勘定科目	2018年度予算	2019年度予算	備 考
通 信 費	40,000	10,000	会費請求書発送費
Newsletter 印刷費	120,000	90,000	No.39、No.40 2回分（2019）
Newsletter 発送費	20,000	20,000	
行 事 費	50,000	20,000	講師謝金等
会 議 費	25,000	20,000	弁当代等
事 務 費	50,000	20,000	HP 作業費等
学会業務委託費	440,000	150,000	月1万＋会費請求督促業務年3万
会計特殊業務（2019年のみ）	0	30,000	新規口座開設等
消 耗 品		20,000	印刷用紙、宛名シール等
ワールドプランニング精算		37,789	（No.38号印刷送付代）
振込手数料	5,000	5,000	
予 備 費	4,219	107,378	上記予算と収入の差額
支出合計	754,219	530,167	

日 時：2019年2月25日（月） 18:00～20:00

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 8号館 4階会議室

出 席：国枝、小浜、袖井、田原、羽場（5名）

議 事：

1. 事務センターの解約について

総会決定を受けて、株式会社ワールドプランニング（WP）との業務委託の解約に至る経緯と事後処理の状況について、羽場会長から説明がなされ、了承された。

2月8日にWPに送信された質問状に対して、現在も納得できる回答がなされていない会計上の不明点については説明を求め続けること、また使途不明金および業務委託費に含まれる内容が実費扱いで別に徴収された金額については返還請求をし続けることが確認された。

JAICOWSが所持していない資料（WPに業務委託を開始した2000年から2009年分まで）をWPに要求することが確認された。

2. 会員への報告文について

総会での決定事項とその後のWPとの解約、口座の変更について、会員に通知する文案が事務局より提案された。役員からの意見を反映して修正し、確認の上、近日中に会員に送付することが了承された。また、会費未納者への請求は、時期を改めて行うことにした。

速やかに口座を開設し、3月までの間は口座の変更について繰り返し会員に周知することが確認された。

3. WPに委託していた業務の分掌について

WPに委託していた業務は、以下のように分掌することが確認された。

- ・会員管理業務（新規外部委託：羽場研究室 中里）
- ・会費の請求（メールまたは文書による請求書の作成を含む）、会費徴収および入金チェック（羽場研究室 中里）
- ・ニュースレターの印刷・発送業務（中西印刷）
- ・会員・会員外の一般的受付業務（事務局：田原）
- ・会場等の手配（羽場）

4. 副事務局長について

2019年度より廣瀬役員が副事務局長に就任することが事務局長より提案され、了承された。

5. インタビューの再開について

ニュースレターのコンテンツとして、国枝役員によるインタビューを再開することになった。次号には、袖井役員へのインタビューを掲載する予定である。

日 時：2019年7月11日（木） 16:30～18:10

場 所：青山学院大学青山キャンパス 17号館 本多記念国際会議場控室

役 員：羽場、岩井、国枝、小浜、田原、直井、廣瀬

1. 会員動向について

会員数は115名（本日現在）である。メールアドレスの情報の更新が必要であることから、次のニュースレター送付の際に情報を収集することにした。

2. 会計報告について

本日現在の会費収入は37万円（74名分）で、今年度予定された事業は実施できる見通しである。会費の滞納がある会員には、ニュースレター発送時に併せて督促状を同封することにした（滞納分の合計額は505,000円）。

3. ニュースレターについて

経費削減のため、将来的にはウェブ版のみとする。ただ、今年度は移行期のため、印刷物を送付することにした。原稿締め切りは、7月21日とし、上野千鶴子先生のご講演の報告を掲載する（執筆担当：廣瀬）。

4. その他

会員増の方策については、現在の会員の推薦を条件に日本学術会議関係者以外にも会員を募る方向で検討してはどうかとの意見が出された。

以前に実施した非常勤講師に関する調査の取りまとめ（報告書の作成）を急ぎ、具体的な提言を行うと共に、ブックレットなどの出版物にする。

従来、JAICOWSが実施してきた要望書の提出については、日本学術会議において複数のジェンダー関連分科会が設置されていることから、日本学術会議の提言等に盛り込んでもらうことも検討する。

5. これまでのJAICOWSの活動を振り返る上での重要な関連情報：

- ・直井道子「非常勤講師問題に思う」『学術の動向』1998年2月号。
- ・直井道子「女性研究者のキャリア形成」『学術の動向』1999年6月号。
- ・原ひろ子編『女性研究者のキャリア形成』1999年、勁草書房。
- ・『学術の動向』2000年7月号 特集日本学術会議第132回総会、女性科学研究者の環境改善の具体的措置について（要望）。
- ・『学術の動向』2018年11月号「『学術支援・研究職』の現状と課題—ジェンダー視点からの検討」海妻径子・大沢真理、河野銀子、宮浦千里、羽場久美子、廣森直子、清末愛砂

新 入 会 員 に つ い て

今期新規入会者はありませんでした。

2019年7月末現在 会員数は115名です。入会を歓迎します！

（この号は、直井道子が係りでした。）

連絡先 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局

〒206-8515 東京都多摩市永山 7-3-1 国士舘大学体育学部 田原淳子研究室

E-mail: tahara@kokushikan.ac.jp Tel/Fax: 042-339-7294（研究室直通） URL: <http://side.parallel.jp/jaicows/>

会計・名簿管理本部

〒150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 青山学院大学国際政治経済学部 羽場久美子研究室（JAICOWS会長）

E-mail: jaicows@gmail.com Tel/Fax: 03-3409-8532

郵便振替

ゆうちょ銀行口座：00160-5-421146 店番店名、店番 019（ゼロイチキュウ）

口座名義：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会